

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOUJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0911
東京都 八王子市打越町 334-2-5-201
花輪 宗命 TEL : 090-2213-0257
Fax:042-636-6157
E-mail : hanamate@rk9.so-net.ne.jp

2023年 1月

The Service Club of The YMCA

第331号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	花輪 宗命	国際会長 Samuel Chacko (india)
副会長	茂木 稔	主題「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」
書記	久保田 貞視	スローガン「自己を越えて、変化を起こそう」
会計	長谷川 あや子	アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen 主題:「新しい時代とともに エlegantに変化を」 スローガン「今すぐ実行を」
直前会長	山本 英次	東日本区理事 佐藤 重良 (甲府 21) 主題:「未来へ向けて今すぐ行動しよう」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
プリテン	山本 英次 茂木 稔 大久保 重子	あずさ部部长 後藤 明久 (富士五湖) 主題「ワイズへの参加と交流を楽しもう」 八王子ワイズ会長 花輪 宗命 主題「感謝と報恩奉仕」

1月例会プログラム

(担当:B班 花輪、望月、並木真、久保田)

日時: 1月28日(土) 18:00~20:00

会場: 北野事務所 2階大会議室

第一部

開会点鐘 久保田書記

ワイズソング 一同

ワイズの信条 一同

ゲスト・ビジターの紹介 久保田書記

卓話「協働のまちをめざして」

卓話者:八王子市協働推進課 長尾千恵主査

第二部

聖句・食前の感謝 並木 真

会食

東京YMCA 報告 担当主事 菅野

・報告・連絡事項 書記・各委員

Happy Birthday (並木信一) 久保田書記

スマイル 望月

ゲスト・ビジターの一人一言 司会

閉会点鐘 久保田書記

対面リアル&Zoom 併用開催

巻頭言

次期会長のお話を頂いて

次期会長 並木 真

明けましておめでとうございます。今年はいつもととは違う年になります。私にとっては、昨年末の例会で「次期会長選任」の議題があり、私にもお声がけを頂き、お受けしたからです。

今までの会長の方々のお姿を見てきて、まだワイズ歴3年しか経たない、若輩者の私に務まるのかという思いもありましたが、「これは、活動に主体的に関わるチャ

先月の例会ポイント (12月)

在籍	12名	切手 (小口、酔屋、津田)	0g
		海外0g	計 1544.8g
メン	11名	現金	0円
メイキャップ	0名	累計	0円
出席率	92%	スマイル	15,000円
メネット	2名	累計	55,950円
ゲスト	4名	オークション	0円
ビジター	1名	累計	0円
ひつじぐも	5名		

今月の聖句(2023年1月)

「先生、律法の中で、どの戒めが最も重要でしょうか。イエスは言われた。『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の戒めである。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つの戒めに律法全体と預言者たちが、かかっているのだ。」

新約聖書マタイによる福音書 22:36~40

ンス」だと思ってお受けしました。



突然ですが、私は佐野元春というロックミュージシャンが好きです。特に好きなアルバムが、私が大学入学間もない1989年に発表した『ナポレオンフィッシュと泳ぐ日』です。このアルバムコンセプトは「新しい時代のデモクラシーと個の自由」。

日本はバブルで、世界では民主化の風が強く吹いていました。ソ連の終焉、ベルリンの壁の崩壊などもこのころですね。明るい曲調やマイナーな曲調、様々な曲が納められています。何か全体的に「未来に向かって進んで行こう。」という雰囲気を感じられて好きなのです。

アルバムの話を続けさせていただきます。CDについているパンフレットにはそれぞれの曲の歌詞ページに、「言葉」が添えられています。例えば、1曲目「ナポレオンフィッシュと泳ぐ日」には「君には見張り塔からずっと見てくれる人が必要だったんだよ」という言葉が添えられています。この言葉はアルバム全体のイメージでもあるのですが、クリスチャンの両親で育った私には、神様の存在を思い浮かべました。

以上、皆さまの知らない私でした。私がワイズメンズクラブに入会した目的の一つは「自分に近い年齢層ばかりではない、様々な方々との交わりの中で、自分の世界を広げていきたい。」というものです。活動の相談ばかりではなく、ゆっくりとお話が出来て、皆さまそれぞれの「知らない私」をもっと知ることが出来たら。

皆さまのお力を頂きながら、楽しい活動が出来たら嬉しいです。どうぞ、宜しく願い申し上げます。

会長談話 「半年の任期を振り返って」

花輪宗命



昨年7月、山本前会長から八王子クラブ会長のバトンを受け継いでから半年を経ました。

2度目の会長就任でしたが、1度目の時ほど緊張することもなく、神様と先輩方や仲間の皆様が暖かく見守ってくれているのを

ひしひしと感じながら、感謝の気持ちでいっぱい半年を過ごしました。

キックオフの例会から、佐藤信也さんという、かつての私どもの仲間であり、なおかつ、全国あるいは場合によっては世界にも誇れるような新メンバーに入会していただくという最大のプレゼントを用意してもらいました。爾

来、担当主事の菅野さん共々、八王子クラブの諸活動の要として大活躍頂いております。

YMCAとの関係で言えば、今や八王子クラブの宝である中央大学YMCAクラブののひつじくもの学生さんたちの活躍も目を見張るものがありました。コロナ禍がなかなか収まらないなか、様々な工夫を凝らして環境保全などの活動を行って東日本区から表彰されたほか、東日本区のお世話で、タイで開かれた第18回国際ユースコンボークーションに、八王子クラブが推薦した2名の学生さんが参加させてもらい、世界のYMCAの若者たちとの交流も実現しました。

また、昨年度、八王子クラブの皆さんが一丸となって応援した、私どものマドンナ長谷川さんがあずさ部部長として大活躍をされ、大変素晴らしい実績を挙げられたことに対し、エルマークロウ賞が授与されるという栄誉も受けたのも、この半年の嬉しい出来事でした。

この他、あずさ部や東日本区の仲間のクラブにも、いろいろな活動にお誘いを頂いたり、ご協力を頂いたりしながら、楽しく、有意義なワイズメンズクラブ活動が展開できたことにも、感謝の言葉とともに言及しなければなりません。

後半の半年も、引き続き、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

2023 年在京ワイズ新年会

小口多津子

青空の冬の日、7日(土)に在京ワイズ新年会がありました。久しぶりリアルでの集まりということで、皆さんにお会いできるという楽しみが誰の顔にも溢れていました。八王子クラブからは、並木真さん、菅野牧夫さん、長谷川あや子さん、久保田貞視さんと小口の5人でした。



会場は新宿区の早稲田奉仕園スコットホール。1921年設立のヴォーリス建築のレンガの建物、古き風格のあるこの会堂は関東大震災でも殆ど被害を受けず、100年過ぎても堂々とした建物です。今、早稲田教会礼拝堂とし

て使われています。長谷川さんも私もこの教会員ですが、在京新年会としては初めての会場ではないかと思えます。ホストをされた世田谷クラブの皆さま、素晴らしい新年会を有難うございました。サポートクラブは東京多摩みなみクラブでした。

12時に開会礼拝、早稲田教会の古賀博牧師による「光の子として」の説教でした。お話の主旨は、いまだやまめ戦禍のウクライナに心を寄せて、ウクライナ民話「てぶくろ」の絵本のお話。その絵本をもとにウクライナ東部のマリウポリの街の大きな壁に、日本人画家によって描かれた壁画のお話。その絵の「てぶくろ」の中には民族も国籍も違う人がいっぱい入った卵が描かれ、共に生きていこうとする人々の情熱で、たまごは温められて孵化し、ひなが生まれ鳥となって飛び立つ壁画とのこと。ウクライナの今も続く戦禍のニュースに、世界中の人が現地へと気持ちを寄せること、その熱が、今一番必要な時ではないかと話されて、思いをあらたにさせられました。プログラムはその後、来賓ご挨拶がありました。東京YMCA 菅谷 淳総主事。アジア太平洋エリアの ジェン・チェ・ミン会長(台湾)のご挨拶。台北、ワイズ100周年事業へのお誘いで、通訳はベテランの利根川恵子さん。続いて東日本区佐藤重良理事の新年を迎えたワイズへのご挨拶。この中で長谷川あや子さんへの、昨年度のあずさ部長としての功績に与えられた「エルマークロウ賞」への盾の授与式が行われました。栄えあるこの日にふさわしい長谷川さんの授与式、会堂の中での姿がひとときわ輝いていました。本当におめでとうございました！

第二部は、「ウクライナ支援チャリティーコンサート」。カ



ンデュオシスターズという嘉村えり・ゆりえ姉妹によるピアノ連弾演奏。熱情あふれたピアノの演奏、やわらかな「ひまわり」映画音楽や「ダニーボーイ」、ホルストの「惑星」、リストの「ラ・カンパネラ」に至っては、ピアノと体が一体となった素晴らしいテクニックでした。長くお二人はウクライナに在住で活躍されていましたが、戦禍の今、日本に帰国されていたのでした。戦争が終わったら再びウクライナに帰られるとのこと。

今は日本に避難されたウクライナの人たちへ、特に心の支援を続けていられています。避難された彼らの集まりでウクライナ国歌を演奏した時、どの人も涙でぐしゃぐしゃな顔をされたのが忘れられないとお話されました。情熱と暖かさにあふれた演奏でした。我々は終わって、帰り道、遅いランチを5人で早稲田の街で取りました。



「エルマークロウ賞」受賞 長谷川あや子さん

ご挨拶 IYC 参加を記念して

2022-2023 年度ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

ユース事業主任

衣笠輝夫氏



2023 年度 年賀状

IYC2022 東日本区・西日本区 ユース報告書 巻頭挨拶 衣笠輝夫さま

「アンコンシャス・バイアス」という言葉が、最近若い方々の中で言われるようになってきました。「アンコンシャス・バイアス」とは、私たちの心の深いところで無意識にある偏見、差別、思い込みのことを意味しています。

この「アンコンシャス・バイアス」は自分の中に蓄えきた考え方や経験の上に立っていたのでは克服することができません。克服するには、あえてポジティブになって外に出かけていき、あえて多くの方から話を聞くこと、そのことによって初めて気づきを与えられ、自分自身をより知っていくことができます。

IYC2022 に日本から参加した6人の方々の感想文を読み、よりポジティブに変化してしていく姿を感じ取るこ

とができます。そして、海外の多くの同じ若者に心を開き、話を聞き話をしていく過程で、多くの気づきと新しい自分を発見されたのではないのでしょうか。

「あなたの若い日に、あなたの創り主を覚えよ」との聖書の言葉がありますが、まさに若い日に、みずみずしい感性の日に多くの言葉を覚えよ、多くの経験をせよ、とされている思いがいたします。若い方々がポジティブな姿勢の中で生き生きとして自分の可能性を広げ、変化していく姿を私たちは応援します。そしてその姿によって私たちも元気が与えられます。今回のIYC2022は日本から6名の参加者中、3名が都市YMCAユーススタッフでした。IYC終了後もこの報告書作成等で連絡を取り合い交互の交流を行われ、学Yと都市YMCAへのパイプがより深くなったのではないのでしょうか。この関係をこれからも大切にしていきたいと思えます。

IYC2022に若い人々を推薦し、送り出し、支援くださったワイズメンズクラブの方々各都市YMCAの方々、中央大学YMCAの方々、側面から支えてくださった日本YMCA同盟の方々に心から御礼申し上げます。

*** IYC 参加者感想 ***

伊藤瑠南さん(東京八王子)

中央大学1年/中央大学YMCA ひつじくも

小さい頃から海外に行くことが大好きで、また大学では国際政策文化学科に所属しており、いつか国際交流をして国境を越えた友達が欲しいと思っていました。そんな時にタイのチェンマイで海外研修という話がサークルに入り、それに惹かれて今回のIYCへの参加を希望したのですが、大学に入ってから4ヶ月しか経っておらず、やっと大学生活に慣れてきたところでサークルでの活動経験も浅かったので、この時は本当に参加できるとは思っておらず、ましてや一生の思い出を得られるなんて思ってもいませんでした。

参加にあたって八王子ワイズメンズクラブの皆様、衣笠様、そしてひつじくも委員長の関口さん、この度は推薦、事前の準備、手厚いサポート等々誠にありがとうございました。皆様のおかげで、一生の最高の思い出になるような素敵な経験をすることができました。IYCという素晴らしい貴重な経験をさせてくださり本当にありがとうございました。これは私の一生の宝物です。私はこのIYCを通して世界中のたくさんのユースたちと友達になることができ、帰国してからも、インスタやWhatsAppで毎日連絡を取り合ったり、時にはビデオ通話もしております。

お互いの国は遠く会うことは難しいけれど、SMSが発達しているおかげで時差も関係なくリアルタイムで話せるのでIYCが終わり、日本に帰国した現在でも未だに

IYCを体験できています。中でも、特に2人の素敵な友人に出会えることができました。1人は女の子でもう1人は男の子で2人とも私と同じ大学1年生でインドからのユースです。My Best Friendsになりました。私はこの子から掛けてもらった一言が、とても印象的で嬉しかったです。それは“私たちは親友なんだからお互い謝る必要はないよ”、と言われたことです。私が「ごめんね」と言ったら、逆にこう言われて怒られてしまいました。日本人はすぐ謝りがちで、このようなことはあまり聞かないのでとても良い考え方だとだなと思えました。このような親友間でも文化の違いが体験できて面白かったです。そして男の子とはIPナイトの際に2人で踊ってから親くなりました。日本では音楽に合わせて思いっきり踊ることはあまりないので、最高の思い出になりました。そこ子とは帰国してからも毎日連絡を取り合って色々なことを話しています。

このように国関係なくかけがえのない存在に出会える機会を与えてくれたIYCに本当に感謝しています。そして今までインドの人と関わったことはなかったけれど、今回のIYCを通してインドの人たちの優しさや温かさ、明るい文化がとても魅力的だなと思い、また特に仲の良い子もインド人2人なので、インドが大好きになってしまいました。その2人から次のバンガロールでのIYCには絶対来てねと言われたので、ぜひとも次回のIYCにも参加したいです。今回のIYCを通して学んだことは、積極性と優しさがいかに大切なことであるかです。これらのことは生きていく上でとても大切なことであり、自分でもある程度は持っていると思っていましたが、今回IYCに参加したことで、この価値観が自分の中で大きく変わりました。日本人の感覚では最初は圧倒されてしまうぐらい何か音楽がなり始めたらみんな前へ出て踊り出したり、セッションや司会者による問いかけには我が先にとみんなが自分の意見をや考えをみんなの前で共有したり発表したりして、自分がもうもっともっと前へ出なければと、とても刺激を受けた6日間でした。また、私が悲しくなった時に何も言わなくてもすぐみんなが気づいて「どうしたの」と集まって心配してくれてその後も何度も元気になった、元気そうでよかった。私も嬉しいと声をかけてくれてあまり今まで話したことがなかった子までもが心配してくれてとても心が温かくなりました。国や言語、文化などは全く異なり、時には言葉が通じない時もあったけれど、それでもみんながすごく心配してくれて励ましてくれて、とても良い体験ができたなと思えました。私もこれからのこれらの経験を生かして、今度は周りの人にそう思われる人になれたらいいな、と強く感じました。そして、過去の報告書を拝見した際にはユースコンボケーションに続けて何度か参加している人も多く、また今回のIYC

でも実際に再開を果たしているユース同士もたくさん見られてとても感動的だったので、私もまた機会がありましたら、来年のAYC、そして再来年のIYCにまた参加して、成長した姿を成長した自分を見せられたらいいなと思っております。今回は本当にありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

* IYC 参加者感想 *

峯尾 心さん (東京八王子)

中央大学2年/中央大学YMCA ひつじぐも

今回私は初めてIYCに参加させていただきました。IYCについて何も予備知識がないにもかかわらず、サークル内での参加の募集が行われてすぐ参加しようと決意しました。タイには数年前に住んでいたこともあったので、タイに行くことに対する不安はなかったのですが、他のユースたちとの英語でのコミュニケーションが取れるかどうかがとても不安でした。そして、コロナの影響で事前に行われるオリエンテーションや顔合わせがオンラインになり、IYCやYMCAの活動について詳しく知らない状態で行ったので、そこに関しても不安を感じていました。IYCの前半は他の参加者たちと話すのも緊張してしまっとうまくいきませんでしたが、彼らがとても積極的に話しかけてくれたり、私のつたない英語を上手に聞き取ってくれたりしてくれるので、私も積極的に行こう！と強く感じるきっかけになりました。YMCAの活動に関して、他の国の参加者がその国のYMCAが行っている活動を細かく教えてくれたので、どういうものなのか理解することができました。ホテルでご飯を食べるときは、あえて他の国の参加者と同じテーブルに座ることで英語を話し、彼らの国について知ることができていることに気が付いたので、途中から積極的に大きなテーブルに座るようにしました。今後IYCに参加する予定の方にこの方法をお勧めします。今回の参加を通して、いろいろな方に出会うことができました。また会うことは難しいかもしれないけど、今の時代はSMSがあるので、SMSを活用して連絡を取り続けていきたいと考えています。今回、違う国に住む人と英語で話す楽しさに気づきました。また、いつか日本を飛び出て、たくさんの人と英語で会話したいと感じました。こういった貴重な機会を私に与えてくれくださ



り、本当にありがとうございました。

八王子クラブのクリスマス例会

長谷川あや子

2022年のクリスマス例会の担当はA班でした。12月17日(土)大学セミナーハウスの予約が出来少しホッとしました。メンバー、メネットの他、ゲスト・ビジター、中大ひつじぐもにもアピールしますが、今年は3年ぶりにひつじぐもから5人の参加を得て大いに活気づきました。

八王子クラブのクリスマス例会の特徴は何といってもクリスマス礼拝があることです。クラブの監事であった仲田

達男さんに奨励をお願いしてきましたが、現在は並木信一さんにメッセージを頂いています。その仲田さんが12



月3日に召天されたとお聞きした時は本当にショックでした。直前までYMCAの方と「中国語聖書に親しむ会」の打ち合わせをなさってらしたそうです。今は天上で私たちを見守っていて下さると思います。奨励の後「スノーピーのクリスマス」が上映され、それぞれクリスマスの意味を考えました。

第二部は「楽しい夕べ」です。中大ひつじぐもの新しい副委員長森脇啓心さんからのご挨拶、そして次期会長の並木真さんの力強い乾杯のご発声の後、テーブル席もゆったり取って特別弁当の会食となりました。一昨年、永町さんの“ピアノ・ミニコンサート”が好評を博しましたので、今年も是非にとお願いいたしました。「イマジ」 「クリスマス・キャロルの頃には」「サウンド・オブ・サイレンス」など懐かしい曲にうっとりし、映画音楽「ひまわり」にウクライナを想い、最後はクリスマスソングで盛り上がりました。何と心豊かなひとときでしょう。スマイル(多摩いのちの電話のために)の後、花輪会長の閉会のご挨拶で締めくくられ、多摩みなみクラブの田中博之さんの素晴らしいカメラと腕での写真撮影となりました。

「ワイズは元気の源」と言って下さる福田さん、寒い中をご遠方からありがとうございました。NPOの会議をZOOMで出席された後で駆け付けて下さった白羊会会長の米山さん、ありがとうございました。天気予報通り雨

が降り出しましたが車に分乗し皆、無事に帰途につきました。沢山の方がこうしてワイズに繋がって下さることに深い感銘を覚えました。ワイズの暖かさを十分に感じることでできた一日でした。

「出会いと絆を生む不思議—クリスマス

in0422」

クリスマス例会奨励 並木信一

- お手元に今年の「0422市民クリスマス オンライン礼拝」のチラシをお配りしました。
- 1978年だったかと記憶しています。あるいは1年ずれているかもしれません。市外局番を共有する武蔵野、三鷹にあるキリスト教諸教会が教派を超えて協働して、一般市民に、クリスマスの本当の意味を伝えるプログラムとして、「市民クリスマス」をしませんかと、呼びかけあい、スタートしたのが、この「クリスマス in0422」クリスマスです。
- はじめ、日本キリスト教団の3教会、と単立のICU教会、武蔵野YMCAで準備会を重ねました。事務局は、超教派の団体であるYMCAがよいということでYMCAが引き受け、会場は、大きな礼拝堂を有するICU教会。武蔵野、三鷹市内のYWCAを含む、諸キリスト教会、に向けてアンケートを行い、「クリスマスの正しい意味を一緒に市民に伝えましょう」と、呼び掛けました。
- 「主催に加わる」と返信された7~8教会の牧師などで第一回の実行委員会をYMCAで開催。この実行委員会の場面を今でも鮮明に記憶しています。牧師先生がそれぞれ名刺を出し合い、挨拶を交し合う光景です。
- 「はじめにお目にかかります。お名前は存じ上げており、かねがね、おめにかかりご挨拶をと思いながら失礼をしておりました。」数百メートルしか離れていない教会でお互いに20年以上も伝道活動を行っていらがらす。
- そして、スタートしたのが「0422」クリスマスです。クリスマスが、まずは、諸キリスト教会とその牧師を出会わせ、40数年を経た今に至るまで、この相互の絆が保たれて、地域市民に向けての協働のわざとして、クリスマスの正しい意味を伝えようとしています。まさに、私にとっての、クリスマスは、この「出会いと絆を生む不思議」、そのものと言えます。
- そして、第一回のプログラムは、武蔵野YMCAのユースボランティアリーダーによる「イエスキリストの誕生物語」のスタンツでした。約50名のYMCAのユースボランティアで運営をいたしました。それは、まことにつたない演技であったかもしれません。しかし、みんな

真剣で、一生懸命でした。

- ★イエス・キリストは神の子と言われますが、クリスマスの、その誕生の物語に記される光景も、およそ華々しい光景とはかけはなれたものとなっています。「あなたがたは、産着にくるまって飼葉おけに寝ている乳飲み子を見つける。これがあなたがたへのしるしである。」救い主は、力強くたくましく、みるからに頼りになる姿をもってあらわれはしなかったのです。このことの意味にあらためて思いを寄せたいものです。

クリスマス例会こぼれ話

佐藤信也

コロナ禍中の3年目となるクリスマス例会は二部構成で今年も行われました。

第一部では並木ワイズによる「出会いと絆を生む不思議」と題してスヌーピーのクリスマスの映画を見ながら改めてクリスマスの意味を考える良いひと時となりました。

第二部では花輪会長挨拶から始まりゲスト5名のご紹介、次期会長の並木真さんより所信証明演説？？ならぬ乾杯のご発生を頂きスタートしました。今年は中央大学学Y ひつじくもから5名の若者たち、さらにはひつじくもOB 会(白羊会?)会長の米山敏裕さんも飛び入り参加を頂きました。会の中で永町匡世(ながまちまさよ)さんによるピアノ・ミニコンサート。楽曲は、ひまわり(映画音楽)、イマジン(ジョン・レノン)、クリスマス・キャロルの頃には(稲垣潤一)、ワインレッドの心(安全地帯)、シングル・ベット(シャ乱Q)等の歌謡曲も盛沢山。永町さんの心地よいリードによって最後にはサンタが町にやってくる(クリスマスソング)をタンバリン、マラカス、鈴等の楽器を使って思い思いにアカペラやダンスなどで大いに盛り上がった楽しいクリスマス会となりました。

会の準備を頂きた皆さん、そして場を盛り上げてくれた音楽家の永町さんに感謝します。

ありがとうございました。



永町 匡代さんの軽妙な話術を堪能

わくわくビレッジ便

担当主事 菅野 侑夫

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく
お願いします。

年末にわくわくビレッジの原っぱにイノシシが出現しま
した。数年前にイノシシ被害を危惧して、テントサイトを
柵で全面的に覆いました。これでテントサイトの運営は
安全に行うことができるようになりました。今回の出沒は
真昼間の原っぱでした。イノシシは朝方に行動するら
しく、地面を掘り返した痕跡は今までに何度も確認され
ていますが、生体を間近かで確認するのは初めてのこ
とでした。1日原っぱをクローズにすることになってしま
いました。

警察に連絡を取り警察官に来てもらいましたが、警察
からは八王子市の獣害対策課に連絡を取るようと言
われ、獣害対策課は警察の指示がなければ動けないと言
われ、たらいまわしにされた感じでした。結局私有地



については、警察も
獣害対策課も立ち
入れなく、所有者
が駆除をお願い
するしかないとい
うことでした。地元
の猟友会を紹介し
てもらい打ち合わ
せをしていますが、
どうなっていく事
やら...

新年を迎えわく
わくビレッジスタッ

フに課す、今年度の私の目標を考えました。館長になっ
てから今までは、「こういう施設になったらいい」、「こ
ういうプログラムを取り入れたい」という思いを持って
まいりと言いつつ続けてきましたが、大きな変化が
ありませんでした。今年度はスタッフ一人一人が、目
標をもって、その達成のためにどのようなアクション
を起こし、実際の成果としてなにが変化したのか
ということの評価していきたいと考えています。スタッ
フにとっては成果を求められるので大変だと思
いますが、新しい働き方で、一人一人が成果
を感じ取って、生き生きとした動きのある職
場にしていきたいと考えています。

ひつじぐも便

次期ひつじぐも委員長 大山 希

この度、2023年度中央大学国際ボランティアサークル
ひつじぐもの委員長に就任いたしました、法学部法律学
科2年の大山希です。

私が2年間で感じたひつじぐもの良さは、国際交流を
含め、伝統がありたくさんの方と交流できる点、サークル
員がそれぞれ真剣に活動に取り組んでいる点です。

私自身、ひつじぐもに入った当初は対面での活動が
難しく、初めの1年間はひつじぐものことを何もわかって
いない状態でした。しかし今年度、前委員長の関口さん
を始め3年生のもとで対面の活動が増え、サークルの楽
しさを感じ、ボランティア活動を通して貴重な経験をする
ことができました。

ひつじぐもの魅力と共に、様々な方と交流して自分の
知識や考え方の幅が広まったり世の中の人々が目を向け
ていないところを支えている実感を得たりできるボラン
ティア活動の魅力にも気付かされました。

一方で、他大学や国際的な交流は未だ少なく、毎
回の活動で集まるサークル員は顔馴染みのある人たちば
かりであり、以前のような活発なサークルにはまだ遠
い状態です。実際に、私自身まだ2年生の半分以上の人
と顔を合わせたことがなく、ひつじぐもの魅力、ボラン
ティアの魅力が伝わっていないことに悔しい思いを感じ
ています。

ひつじぐもをより活発な明るいサークルにしていく
ために、以前に増してサークル員同士の交流も深めるこ
とが必要であり、それが、ひつじぐもやボランティアの良
さを広めることに繋がると考えています。

来年度は、「明るさと真面目さを兼ね備えたサークル」
を活動方針とします。このように書くと少し無難に感じ
るかもしれませんが、ひつじぐも自慢の「真面目さ」も
って活動をすすめて、そこに「活発さ」を加えた、より大
規模なサークルを目指し、ボランティア活動を通じて人の
助けとなるような活動を行ってまいります。

今後ともよろしくお願いいたします。



今月の聖句に寄せて (2023年1月)

浄土真宗の冊子「報恩講」にこんな「とんちクイズ」が載っていました。

「お坊さんはみんなよい人？」

お坊さんたちの京都観光。市バスに乗っていた乗客は、法衣姿のお坊さんたちだけだった。そこに一人のおばあさんが重たそうな荷物を持って乗ってきた。しかし、お坊さんたちは誰一人として席を譲ろうとしない。なぜだろうか？

こたえ

「最初から誰も席に座っておらず、みんな立っていたのだ。」

「席も譲らないなんて、悪いお坊さんだな」と思った方もおられるのではないのでしょうか。この問題で考えさせられることは、「私たちの思う“よい人”も“悪い人”もそれは私たちの捉え方次第でどのようにも変化する」ということです。

問題だけを切り取って聞けば、このお坊さんたちは席を譲らない“悪い人”。でも答えを聞けば、決して誰も悪い人だと思わないでしょう。

このように私たちはふだんから、自ら知り得たことだけでその人がよい人なのか悪い人なのかを、かってに判断しています。しかし、果たしてその判断とはどれほど正しいものなのでしょう。親鸞聖人は「此の世のまことは念仏だけである」とおっしゃいました。自ら作り出した善や悪に振り回されることなく、“まこと”の仏さまに手をあわせ、自らを見つめるひと時を大切にしたいものです。と、クイズは結んでいました。大切な学びをさせていただきました。

新しい年のはじめ、何が本当の事なのか、なにが最も大切なことであるのか、まことを見る目を見失わないよう、「マタイによる福音書 22 章 36~40」に学びたいものです。

並木 信一

東京YMCA 近況報告 1月

- 11月25日～27日に「第22回日本YMCA大会」が日本YMCA同盟東山荘、及びオンラインで開催され、全国のYMCAから約200名が集い、東京YMCAからも9名が参加した。
- 日本YMCA同盟表彰として、全国YMCAの永年継続会員やYMCA運動に貢献のあった会員241名が表彰を受けた。東京YMCAからは、青年奉仕賞を郡山千里氏と山本和氏が受賞した他、50年継続会員賞2名、25年継続会員賞33名、25年勤続者賞1名が表彰を受け、記念品が贈られた。
- 11月27日に山手センター70周年を記念したリーダーOBOG会が開催され、現役のリーダーも含め125名が集った。リーダーOBOGによる実行委員会が中心となり運営がなされ、再会と交流の機会となった。当日はリーダー養成募金として約9万円が寄せられた。
- 12月14日に「ウクライナYMCA支援活動報告会」がオンラインで開催され、会員、職員他70名が参加した。ウクライナYMCAのVictor Serbulov 総主事他、同YMCAの職員やボランティアから、ウクライナYMCAの活動や、東京YMCAの支援により実現したキャンプ、現在のウクライナ国内の状況等について報告があった。また12月18日には日本YMCA同盟が国内に避難しているウクライナの人々を対象に行っている支援プログラム「Ukraine Café HIMAWARI」のクリスマス会が開催され、在日ウクライナの方々など約100名が集い、東京YMCAから3名の職員がボランティアスタッフとして参加した。
- 「東京YMCAクリスマス募金」として、ウクライナ募金、国際協力募金、障がい児プログラム支援募金、フレンドシップファンドへの協力を呼びかけ、多くの会員や関係団体より支援が寄せられている。
- 深 悼 謹んで哀悼の意を表します。
 - ・ 仲田達男氏(元財団法人東京YMCA理事長/名誉会員)12月3日召天 享年93

(報告)

2022年12月第二例会議事録

日時: 12月24日(土)18:00~19:20

会場: 北野事務所小会議室

担当 A 班

- 1) クリスマス例会の振り返りとお礼
花輪会長より、クリスマス例会がスムーズに出来たこと、司会者を主として A 班の皆さんへの感謝。
・クリスマス例会会計報告
長谷川 A 班班長より次の報告あり。
収入: 会費 42,500 円 (2,000x11, 3,000x6, 500x5)
支出: 謝礼・永町さん 12,000 円 (謝礼 10,000、花 2000)
大学セミナーハウス 61,985 合計: 73,985 円
差引 31,485 円。クラブ勘定より支払い。
- 2) 1月の例会
・花輪会長不在期間中の代理・久保田書記
・1月第1例会 1月28日(土)18:00~
会場: 北野事務所大会議室
卓話: 「協働のまち」をめざして
卓話者: 協働推進課 長尾主査
- 3) 東日本区臨時代議員会の決議
・次次期理事の選出—山田公平ワイズを選出。
次期・次次期2年継続で理事就任
- 4) 在京ワイズ合同新年会 1月7日(土)12:30~
会場: 早稲田奉仕園 礼拝と
「ウクライナ支援チャリティコンサート」
(参加者・敬称略) 小口、長谷川、並木真、菅野、久保田
- 5) その他
・2月の評議会の通知未達 長谷川会計より打診
・12月26日仲田さん宅弔問 有志による献花
(出席者(敬称略)
花輪会長、長谷川、並木真、望月、菅野、久保田

1月の誕生日
並木 信一さん
1月20日

深悼—仲田達男さん

並木 信一

仲田さんが永眠されたことのお知らせで、大きな衝撃を受けました。しばらくお会いしていなかったとはいえ、まだまだ元気でご活躍、と思っていましたから。

YMCAに関わり、仲田さんは様々な場面で多くの貢献をなさり、足跡を残されました。中大学YOB、東京YMCAの常議員会議長・理事長、中国語の聖書を読む会の主宰、八王子ワイズメンズクラブの会員等々。東京YMCAが歴史的に困難な局面を迎えた時も、その責任を担われました。

ご一緒したことの中にも、思い出に残る様々な場面があります。とりわけ思い出されるのが、1993年11月、東京YMCAの中国YMCA訪問団でご一緒し、ご夫妻と中国各地を訪ねた時のこと。ご夫妻は、いつも一緒に旅行を楽しみ、仲睦まじく寄り添い、本当に節子夫人を愛しみ大切にしておられる姿を同行した私たちにを見せておられました。また、私的にも、ご自宅で主宰されていた、ミルトス会の聖書研究会にも、妻の雍子が参加させていただき、ご指導いただきました。

今、あらためて、訥々とした語り口に説得力のある、仲田さんの姿を脳裏に蘇らせ、これまでのお交わりとご指導とに、感謝の思いで満たされます。

仲田さんの御霊の平安と、節子夫人への神様のお慰めが豊かにありますことを心よりお祈りいたします。

仲田達男さんの思い出

小口多津子

先月12月3日に仲田達男さんが天に召されたことを、お聞きしました。

本当に驚きました、私はその前の6月には直接お電話で、お元気でお話したばかりでした。

先日26日に、クラブの有志でご自宅に弔問に伺いました。この時期なので、家族葬でお見送りされて、その後聞き知られた方々の沢山のお花に囲まれたご遺影の笑顔に、仲田さんの心残りなく人生を全うされた思いを知りました。93歳のご長寿でした。節子夫人が言われるには、なんと亡くなる1か月前までは、力を注がれておられた、日野市にある重度視覚障害者施設「東京光の家」での聖書集會でお話をされて、直前までお働きだったことをお聞きしました。

お話によりますと、この晩年まで継続されていた会合は、ご自宅での聖書集會の「ミルトス会」のほか

「東京光の家」での聖書集会、同じく光の家での「マルコ伝を読む会」、それと西早稲田・東京 YMCA 本部での「中国語の聖書に親しむ会」が、それぞれ月1回受け持たれていました。中国語聖書はコロナ禍でしばらくは、途切れておられたとのことでした。

私は、7年ほど前ですが、仲田さんからキリスト教新聞社から取材がある日、今度の中国語の聖書に親しむ会に出席してみませんか、とお声をかけて頂きました。難しい内容なので聞くだけでしたらと、身を小さくして教室の後ろに座っていました。場所は山手センターでした。お話は素晴らしい内容でした。一つの聖書箇所を日本語で解説し、その後にギリシャ語ではこうです、中国語では、とその微妙な違いを説明されたのです。後日、クラブの中でそのことをメールで報告しましたら、仲田さんから、取材のあった新聞社へ、参加者報告で載せるのと打診があって、後日掲載されました。その新聞記事は記念に大事に取ってあります。節子夫人のお話では、沢山の聖書箇所のご訪問をお二人でされたそうです。イスラエルは2度、エジプト、イタリアの旅。小説家である節子さんの題材にも、このご旅行が重なっておられたのです。こんなお話をお聞きました。最初のイスラエル旅行の直前に仲田さんが、急性の緑内障を発症されたそうです。急遽手術はされたそうですが、前からの予定だったので2日後には医師の目を盗み、一緒に旅行を実施されたそうです。無事だったそうですが、砂漠の砂なので、菌が入らないか心配続きだったそうです。そういう無茶をされるのも仲田さんの一面でしょうか。

節子さんは、現在、近くには次女の方がおられ、息子さんもおられ、イギリスにはご家庭をお持ちのご長女が長年住んでおられるので、心強いですと気丈におっしゃっていました。

仲田さんは八王子クラブをご体調のことで数年前には退会されましたが、大きな存在感のあった仲田さんは、この先もずっとクラブの一員です。天上での安らかな眠りを心からお祈りいたします。



仲田達男さんを偲んで

久保田貞視

仲田達男さんが12月3日に天国に召されました。当クラブは退会されていますが、当クラブ設立間もない時から会員で例会には余りお顔を出されませんでした。チャリティコンサートやクリスマス例会には必ずご出席され、継続して奨励をなされていました。

仲田さんとはワイズ以外で2003年東京YMCAの常議員の時に、東京YMCAの理事長にご就任され2009年1月に退任されるまで、いつも常議員会ではご一緒でした。東京YMCAは神田にある本館の借入金を返済できず売却することに決まっており、今後のYMCAをいかに建て直すかという時の理事長で大変ご苦労されました。資金繰りのために野外センターを整理して、野辺山高原センターを地元の川上村に譲渡した時には仲田理事長にお供したことが、2005年に元の都立高校を修復して東京都の青少年センターたる高尾の森わくわくビレッジとして京王電鉄と共同受注するときに、常議員会でその決を採るにあたり、神田会館売却の後でもあり、リスクを恐れて誰も手をあげないので八王子市民として是非誘致してほしいと訴えたところ承認されたことなど懐かしく思い出されます。

ご逝去されたことは非常に残念ですが、40年続いたミルトスに出席していたクラブの中塚君に天国で再会され種々ご教示されますようお願いいたします。



左：節子奥様 中：ありし日の仲田さん 右：小口さん

追悼の寄せ書き

